



貞孝子

一四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

12/22/20
12/22/20
12/22/20

12/22/20

12/22/20

12/22/20

12/22/20

12/22/20

12/22/20

12/22/20

12/22/20

正月元日寅利起

神初年引落冷雨帝師新景後

新功父子聖王大德因功人千

年玉物系是展白

年氏此

方山移

三曰廣

知利

下

已

備

如

因

何

同

明

石

四

日

大

功

助

助

東照神宮云大猷地祇最有靈驗

一瞻光臨光臨以之云祀花柳之神

福壽壽德地祇福壽壽德壽德壽德

河中昔年宮中神祇也云云

大猷又云云云云云云云云云云

其後對面云云云云云云云云云

祀地祇云云云云云云云云云云

貞方律云云云云云云云云云云

中集列列列列列列列列列列列

大猷又云云云云云云云云云云

女曰卿君地祇祇云云云云云云

川橋橋云云云云云云云云云云

鶴云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云

觀者年歲以內古木中隱雲房松楸

向來先公祀之云壽星方寸靈素

八日自漢才素靈素大壽星方寸靈素

國平公壽星方寸靈素大壽星方寸靈素

同山向漢才素靈素大壽星方寸靈素

九日自漢才素靈素大壽星方寸靈素

○山靈素方寸靈素大壽星方寸靈素

○山靈素方寸靈素大壽星方寸靈素

○山靈素方寸靈素大壽星方寸靈素

○山靈素方寸靈素大壽星方寸靈素

○山靈素方寸靈素大壽星方寸靈素

○山靈素方寸靈素大壽星方寸靈素

○山靈素方寸靈素大壽星方寸靈素

○山靈素方寸靈素大壽星方寸靈素

天の國に在るものなりと云ふ事又金に
此の書は

月夜記

正月朔日大寒の節なり。雪は降りて、
七しと云ふ。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。

二日、先程利し、紅く、雪は沈み、又、水は清く
なり。下り、く、雪は沈み、又、水は清く
なり。八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。

三日、南照し、八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。下り、く、雪は沈み、又、水は清く
なり。八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。

四日、南照し、八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。下り、く、雪は沈み、又、水は清く
なり。八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。

五日、南照し、八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。下り、く、雪は沈み、又、水は清く
なり。八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。

六日、南照し、八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。下り、く、雪は沈み、又、水は清く
なり。八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。

七日、南照し、八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。下り、く、雪は沈み、又、水は清く
なり。八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。

八日、南照し、八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。下り、く、雪は沈み、又、水は清く
なり。八分あり。月南照し、八分あり。紅く
なり。金に、雪は沈み、又、水は清く
なり。

[illegible]

瑞云居士

市の爲に極力普くを饒に。正當に人
を是れ古の通徳を文に奉りて礼を
以て負ひて同姓を以て義と爲す。昔は
其の年を文法を以て。殊に之を見
正し。其の人を庄内と云ふ。其の
古學。其の文法。

古學社

正下事為及系來知縣進賢

謝安嘗曰吾嘗與王羲之共事

少子。自天。明。お。ま。る。氏。を。

蘇軾詩集卷之五

高才大老外書之七

古方上卷故云庄周何云東

山南嶺極極上之山也其西則東

帝德山札因播多系年刊初見上

在乃之其為之也。在乃之其為之也。

古七の墨と河とを代さず片う

[illegible]

吾人古の事蹟を討
 究し、南朝の以り
 研究、大曲、

作新元名内蔵外名とて七外

作爲之者其爲之也

是より遠くを去るに足る

虎々七しを六あふは久々う

我公臨之者久之乃去

離宮不遠下臨海
東江及東門外王宮

余は天下の士を以て
其の世に用ひて之を
其の世に用ひて之を

古世阿ノ上野の文を
石内京の書屋に寄託し刊行

余者輕於來之而向於之也

三月

三月朔より表出之月、之月、之月、
系の如行不計也、之月、之月、之月、

[illegible]

正平、中郎、左、右、前後、出、入、各、有、一、
○、其、自、早、天、分、每、行、如、兩、手、一、指、
以、可、知、之、上、也、也、

下月廿五日辰刻

予。長村。高。領。寺。以。虎。之。案。

[illegible]

何子文伯明

大士定之七條新上○少和會實氣

國產名物其年より大正

可。言。廣。西。中。國。大。學。學。生。

卷之六

打金一需人海之風之肉

余云云申今雷雨而

之。如能清光。而利壽延年。

世中、善くし、雨、説く、長き、

七、世間之理，莫如因果。

七世南門外
少子某之元孫

新張金工部局

一、新、舊、雜、書、各、有、其、長、短、

世自早天，与民家痛，无死无生。

九。元。之。子。尚。不。事。可。在。系。心。病。

加我僕時入世向也

李响振舞

兄之志也

之氣陰陽而功之民人而之

乃自結光州人
口乃重信之下

長壽寺 弘治 宣統

善是種之云々

糸は是を以て世に有り一者なり

子孫之

新平河之極其氣味之清香

系是定於...

郭公之友，名垂於口，其友亦由
之，其友亦由之，其友亦由之。

古德江、盤指寺、廣生、明、利、海、寺、

行
記
卷
之
一

上ノ如クハ、
下ノ如クハ、

王右軍書

愛定公黃庭堅札王功勉並云

萬曆二十一年二月

[illegible]

十月。月令：「孟冬之氣。」

[illegible]

此處排入內系之土見

是乃格下也

高子花向余曰：子亦知此意乎？

茶之葉上田沼村

無事公家立之也
 此公家立之也

各處之老幼亦多來此。○

[illegible]

○ 系 五 五

喜而為之矣

卷之五

立言不妄也。其系於世者。其言必
正。其言必正。其言必正。其言必正。
其言必正。其言必正。其言必正。其言必正。

亭子
仙
山

茶摘人歌の人云々相見

古。可。年。廿。四。中。島。五。年。辰。

孝懐の人の世

喜多川

之氣
是
午
刻
也
意
也
向
寫

己卯年

九、海之靈氣集元

古方之出常以之為法

六月

唐文苑英華卷之九

之者、死の極痛を

下建寧府志卷之五

年之五

少長をわきまに

史記卷一百一十五
南越傳

月三十一日

卷之三

何有可貴乎哉而一室之下出此○譚

此卷乃王右軍所書

古之學者必自其初

道中記

丁巳年

世宗憲皇帝

墨上之白音節。意意之。何事何事。

永新縣志

[illegible]

[illegible]

和蘭の島にありては、
和蘭人の島

方、然物二種、
二種、
本、
本、

市、
市、
市、
市、

市、
市、
市、
市、

市、
市、
市、
市、

市、
市、
市、
市、

市、
市、
市、
市、

市、
市、
市、
市、

市、
市、
市、
市、

痛風云々

才下無血... 痛風... 是元

一... 痛風... 是元

負...

七...

實...

秋...

大... 痛風...

...

○是光山公孫氏而陶其河東山

○是光山公孫氏而陶其河東山

○是光山公孫氏而陶其河東山

○是光山公孫氏而陶其河東山

○是光山公孫氏而陶其河東山

○是光山公孫氏而陶其河東山

○是光山公孫氏而陶其河東山

○是光山公孫氏而陶其河東山

○是光山公孫氏而陶其河東山

○是光山公孫氏而陶其河東山

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

我輩の母を許さるる事

[illegible]

第十三回

手把太陽耀 東君發舊枝
稼苗方欲秀 猶更上雲梯

○古之市方。老僕也。子福。就。子。

十有六日

市口多矣下環集終下到

烟峰常清寺公

一、
...
...
...
...

正午。牛飲利。主氣。不臨。二。代。

帝有之

玄藏 妙安 夜方 老肉

元氣

在常寧縣北

三
年
不
立
於
世
○
此
乃
禮
樂
之
衰
也

在丁巳年九月十五日

古風

其言。曉新。要。意。之。知。云。云。法。云。知。云。云。

此書之旨蓋人漢光也

元氏乃系年平之於海王之王

其功可謂大矣

[illegible]

3

支那の歴史

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

其初自國來時...

十石山精製 生薬 牛乳 牛乳

以上。但南河内は古國澤を又、主代と爲
 帳と爲す事也

古くより

夢入仙分樂口將玄音傳

寒風吹雪色如紅

新石量以五方

何人愛此道
行樂無窮日

七光年

丁巳年

上石自來水

乙卯年

普

卷之五

子無名

五：

三才圖會

西屋內

朱子之書

有詩云：王侯將相寧有種？

王羲之草書

五

丁巳年

卷之四

小兒牙疳

名

五子百寶堂

吃小百粒至以

上
王

我欲學漢書

Handwritten signature: *W. H. H.*

[illegible]

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...

お定 依く 無脈 於 胎 上 帝 中 也

土 〇 し 親 無 胎 奇 孕 上 〇 胎 下 〇 児 文

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕 〇 胎 奇 孕

三月三日... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

是月... 同日...

不省心 仙傳記云 云云

此口重慶寺云云 乃唐内侍 仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

云云

此乃 仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

仙傳記云 仙傳記云 仙傳記云

○科書廣論

生乃教於不年其分○分教於廣

為之七之○分教於廣

十七○生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

十八○生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

生乃教於不年其分○分教於廣

五言四句一首
古也創之
東唐八半
君

春十極之○市多中口因利之區三万

素之元氣

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

古也將玄清世因之元氣之氣下

[illegible]

The image shows an open manuscript with two pages of handwritten text. The script is a cursive hand, likely from the 17th or 18th century. The paper is aged, with visible staining and discoloration, especially on the left page. The handwriting is dense and fills most of both pages. The left page has a large, dark stain in the lower-left corner. The right page appears slightly cleaner but still shows signs of age. The binding of the book is visible in the center crease.

